日本聖公会 神戸教区報
神のおとずれ

2025年
1月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
https://www.nskk-kobe.org/

発行責任者
司祭　林　和広

印刷所
文明堂印刷所

まもっていく

司祭　ダビデ　林　和広

新年おめでとうございます。新しい年を迎えました。教会暦におきましては、元旦は主イエス命名の日の祝日です。

ルカによる福音書では天使ガブリエルがイエスの母マリアに「イエス」と命名するように告げる場面があり、マタイによる福音書では「イエス」という名は「主による救い」という事柄と関連しているものであることが示されています。さらにマタイによる福音書ではイエスは「インマヌエル（神は私たちと共におられる）」ということを体現する方であることが示されています。

イエスは人としてこの世界にお生まれになられ、その公生涯―ご降誕、宣教の旅、癒し、受難、復活、昇天、聖霊降臨の出来事―を通してこの世界に救いをもたらされた、そのように聖書は宣言しています。聖書はこの救いの出来事を体験した人たちの実感を通して記されているものです。

イエスにおいてわたしたちは、自分たちは主なる神に守られ、自分らしく自由に与えられたいのちに感謝して生きることができます。わたしたちが生きている世界と与えられているいのちは、主なる神からの贈り物であることをイエスは自らの言葉と行いを通してお示しになられました。

しかし、わたしたちはこのことを見失うときがあります。それは、自分本位な思いから自分の欲を満たそうとする支配者、搾取者、また、この世はすべて力によって支配できると考える権力者によって自分が置かれている場が掻き回され、悪循環に陥るときです。このような諸々の力は、わたしたちが与えられているいのちを抑圧し、縛りつけ、その尊厳を奪い、本来あるべき姿、生き方を見失わせます。

今日のわたしたちが生きる社会は高度に発展した社会、便利な社会となっておりますが、多くの人が自分の価値、存在の意義を見出せず、その声を上げることができずに苦しんでいることを様々な媒体を通して気づかされます。本来、わたしたち人間は、互いに支え合い、助け合って生きる存在であるのに、自らの権力や利益を追い求めることによって、他者が心の平和を失い、不安に覆われてしまうのです。

イエスという名は、「主は救い」という意味があると書きましたが、聖書における「救い」とは自分を縛りつけるものから解放されるという意味があります。人を縛りつけるもの、人を抑圧するものから解放され、安心のうちに生きることができることが聖書における救いです。一人一人のいのちの価値が認められ、愛され、大切に守られること、これが主なる神がイエスをこの世界にお与えくださった意図です。そのイエスを通して神によって招かれ、生まれた教会は、このことをこの世界に発信し、様々なことで自分を見失っている人たちを招き、誰からの抑圧を受けることなしに、その価値を認め、大切にするために存在しています。

今日、わたしたちが属しているアングリカン・コミュニオンにおいてはセーフ・チャーチという言葉を大切にし、セーフであることを意識するようと呼びかけられていますが、この言葉が叫ばれるようになったのは、先述した今日の社会における問題を教会も同じように抱えているからであります。

一人一人のいのちの尊厳を守り、一人一人の多彩ないのちを輝かせていくという本来の教会の存在意義、そのビジョンを再確認し、新しい一年を歩み出しましょう。

（明石聖マリア・マグダレン教会牧師）

2023年 日本聖公会宣教協議会からの呼びかけ③

1 神のみ声に耳を傾けよう（祈り・み言葉・礼拝）

「変化を恐れない　宣教協働区、新しい祈祷書、生き生きとした「今」の礼拝」

フランツ　東　弘彦

日常生活では、インターネットの普及、ＩＴ化、感染症の流行による新しい生活様式など、いくつもの変化に見舞われていますし、〇〇ハラスメント、ＳＤＧｓあるいはＬＧＢＴなど、言葉だけでない、考えかた自体の変化に囲まれてもいます。

私たちの教会も、世の中の変化の影響を受けつつ、変化のさなかにあります。それが「宣教協働区」「伝道教区」といった教区のかたちの在り方、祈祷書の改正、そして「み言葉の礼拝」といった礼拝の新しい形です。

当たり前のものとしてきた、主教を置く11の教区、また、日曜日の聖餐式、秋にはバザーといった「牧師がいる」教会の在り方も前と同じではなくなりつつあります。地方ばかりでなく東京、大阪といった都会の教会の統合の話も聞こえてきます。これらは、私たちにとって戸惑いが多く、すぐに馴染めるものではありません。

これらの変わりつつある現実は、一面、信徒の減少、聖職志願者の減少からの、少し寂しい状況ではありますが、いくつかのことについては別の見方をすることもできます。

クリスチャンの数は少ないが、キリスト教や聖書に関心を持つ人は多い、とよく聞きます。私たちの教会が、その人たちにどのように働きかけることができるかを考える、良い機会を与えられていると言えます。インターネットでの礼拝の配信はその方法のひとつかもしれません。

また、「み言葉の礼拝」の機会が増えています。司式と、奨励や証しなどを信徒がしています。人前で話などしたくない、信仰に関する話などできたものじゃない、というのが正直な気持ちです。でも、聖書の解説ばかりではなく、身近な人が普段の生活に神様をどのように感じているか、聞きたい人は多いと思います。信徒が作り上げる新しい礼拝のかたちだとも言えます。

聖職志願者について、志願しようとする人が本当にいないのでしょうか。神戸教区であえて避けられて来たと思うのは、女性の聖職者です。８つの教区には女性聖職者がいて、いない３教区のうちの一つが神戸教区です。

このように見てみると、状況の変化を受け入れ、前向きに対応することで、神戸教区には大きな可能性があると思います。これから多くのことができるのではないでしょうか。

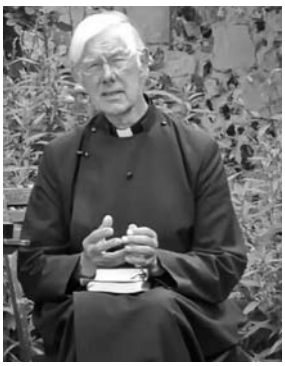
もしかしたら、上に挙げたことを我々が問題だと感じるのは、神さまの声がかすかに聞こえて来たからかもしれません。

（神戸聖ヨハネ教会信徒）

世界の聖公会の動向

元カンタベリー大聖堂主席司祭が逝去

司祭　ポール・トルハースト（管区事務所渉外主事）



カンタベリー大聖堂の名誉主席司祭であったロバート・ウィリス師が10月22日、米国イェール大学バークレー神学校のレジデント・フェローとして在籍中に急逝した。77歳だった。

ウィリス師のパートナーであるフレッチャー・バナー氏は次のメッセージを寄せた。

「ロバート主席司祭の逝去をお伝えしなければならないのは、大変悲しいことです。イェール大学在任中に短い闘病生活を送った後、ロバートは心不全を起こし、昨夜亡くなりました。ロバートは偉大な信仰と知性を持った人物で、その最大の喜びは自分の人生を他の人々と分かち合うことでした。私たちがカンタベリーを離れ、世界中の他の場所で歓迎されて以来、特にそうでした。ロバートは20年以上もの間、私の人生とミニストリーにおけるパートナーでした。そして私のように皆さまも彼の思い出を胸に刻むことでしょう。」

ウィリス師は１９９２年から２０００年までヘレフォード大聖堂の司祭長を務めた後、２００１年から２０２２年までカンタベリー大聖堂司祭長を務めた。また、「In a world where people walk in darkness（聖歌４７６番『暗闇行くときには』）」などの聖歌の作詞者としても知られ、ＣＯＶＩＤ－19パンデミックの際には、美しい庭と好奇心旺盛な猫たちとともにＹｏｕＴｕｂｅを通じて朝の祈りを献げたことで世界的に知られるようになった。

（神戸ＭｔＳチャプレン）

日韓聖公会宣教協働40周年記念大会に参加して

アンジェラ　中村　香

２０２４年10月21日～24日、韓国は済州島で日韓聖公会宣教協働40周年記念大会が開かれた。テーマは〝共に生きる世界～神・人間・自然との和解～「神と和解させていただきなさい」〟。日韓と外国からのゲストを含めて総勢約80名が済州という島に集った。

済州は韓国で観光地として有名である。しかし済州４・３と呼ばれる、かつて植民地からの解放と朝鮮戦争勃発前の混乱の中で、国家権力によって3万人の島民の命が奪われるという、凄惨な歴史を併せ持つ島でもあった。プログラム中には済州４・３平和公園を訪問し、慰霊塔を囲み４・３事件犠牲者追悼礼拝が行われ、一人一人がこの済州４・３に向き合う時間が与えられた。

10年前の30周年記念大会も済州島で行われており、「風の島を聖霊の島へ」というモットーの元、両国の献金により建てられた、〝日韓友情の家〟の祝福式も行われた。

私と韓国との最初の出会いはまさにこの日韓聖公会宣教協働で、１９９９年第5回日韓青年キャンプ於沖縄に参加してから韓国社会宣教スタディーツアーまで、色んな行事に参加させていただいた。当時青年だった日韓の友だちが、今は聖職になって日本で活躍する姿を見ることになるとは夢にも思わなかった。〝日韓友情の家〟の木の下で、これらが日韓聖公会宣教協働の実りであるんだな、という感慨に浸ってしまった。

テーマの「和解」については、それぞれの現場から7人の方の発表を聞いた。その後のグループディスカッションでは意見を分かち合った。学生の時に参加した日韓青年キャンプでは、戦争の歴史を学び、加害国と被害国の立場を突き付けられることが多かったが、今回は共通の課題に目を向け、和解とは何か、また和解のための取り組みを共に話し合うことができたのは、私にとってとても良い経験になった。

最終日の夜、フェアウェルパーティーの閉会時、青年たちが一人ずつお祈りをしてくれた。短い祈りの中に、沢山の想いを感じることができた。彼らは今後どんな関係を築いていくのだろうか。いつか悲しい歴史の壁が立ちはだかることもあるだろう。

この日韓聖公会宣教協働の重みと実りに感謝しつつ、これからの働きを祈らずにはいられない。

（神戸聖ミカエル教会信徒）

鳩だより《敬称略》

教籍移動

11月15日（金）
ウイリアム　秋　間　實
北関東教区志木聖母教会より
神戸昇天教会へ

ご逝去

9月29日（日）
ダビデ　北野悦豫
神戸昇天教会

11月4日（月）
ドルカス　松浦洋子
浜田基督教会

お詫びと訂正

11月号の鳩だよりで９月の逝去者のお名前が掲載されていませんでした。
また12月号でオルガンレッスン日が、1月18日（土）とお知らせしましたが、**19日（日）12時30分から15時まで**です。お詫びをして訂正をいたします。
大変申し訳ございませんでした。

伝道区行事

徳島インマヌエル教会 教会バザー開催

去る11月9日（土）に教会バザーが開催されました。天候にも恵まれ人出も多く盛会でした。

教会バザーは幼稚園の卒業生やその保護者、地域社会の人々との協力によって支えられています。特に地域支援センター「やまもも」の関係者やキリスト教の書籍販売の「リバーサイドブック」の皆さんが出店されて盛り上げていただきました。これからも地域社会に根差した教会でありたいと願っています。

２月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時　2025年2月6日（木）午前10：30
場所　神戸聖ミカエル大聖堂
司式　主教　小林　尚明
説教　司祭　林　和広

どなたでもいらしてください

＊２月の記念逝去教役者

3日	司祭	ハリー	ウッドワード
4日	司祭		横田　秋生
5日	司祭	バークレー	バックストン
5日	司祭	ヤコブ	牧野　輿三郎
5日	主教	モーセ	村尾　昇一
6日	司祭		竹内　宗六
7日	宣教師	ホノリア	ウォージントン
11日	司祭	ヨハネ	中道　政市
12日	伝道師	ルツ	小南　アサ
12日	伝道師		高木　ぬひ
13日	宣教師	フローレンス	ファギル
16日	司祭	ジョージ	ブライドル
17日	司祭	ジョージ	ポール
20日	司祭	ヨセフ	田中　愛次
23日	伝道師		西村　廣子
25日	宣教師		松山　アサ
―	伝道師	アリス	パーカー

＊逝去年月日不明の方々もお祈りします。

オンライン
西日本宣教協働区

祈りのつどい

共に祈る・出会い・交わり

□開催
月１回　３０分間（ZOOM利用）

□担当
神戸・九州・沖縄各教区持ち回り

□参加　どなたでもどうぞ

専用の接続 URL があります。
https://zoom.us/j/4681231279?pwd=aqhCBLINGnhJs7LtAIZAFybgIY11b1.1&omn=94321407109
ID: 468 123 1279　パスコード: 762780
QRコードでも接続できます。
●ご注意!!第15回以前のものは無効です。
お問合せは各教区事務所まで。

《予定》
2024後-2025前

●第20回
11月14日(木)
19:00～
(担)神戸教区

●第21回
12月19日(木)
19:00～
(担)沖縄教区

●第22回
1月16日(木)
19:00～
(担)九州教区

●第23回
2月20日(木)
19:00～
(担)神戸教区

●第24回
3月6日(木)
19:00～
(担)沖縄教区

●第25回
4月10日(木)
19:00～
(担)九州教区

ぜひ
ご参加
ください